

誠策で勝つ

民主党・船橋市議会議員

さいとう 誠

〒273-0021 船橋市海神4-22-12

TEL・FAX 047-431-1717

E-mail seisaku@jasmine.ocn.ne.jp

URL <http://www6.ocn.ne.jp/~seisaku/>



有料老人ホーム

高齢社会に突入し、特別養護老人ホーム等の待機者が増加傾向にあります。

「自宅ではどうしても、介護状態になった親の面倒を見ることができず、特養ホームに入所させてほしい」という要望をよくいただきます。

しかし、特養ホーム設置が追い付かず、待機者が増えているというのが実態です。

行政の財政状況を考えると、特養ホームを推進していくことは現実的にはできない中、民間の有料老人ホームが増えつつあるように思います。

有料老人ホームというと、数百万から数千万円という一時金を支払い、月々の支払をして、病気や介護状態になったとき、ケアをしてもらうということを想像します。

一時金があまりに高額なため、入

所をためらう方が多いと思いますが、最近、数十万円程度の一時金を支払い、月々30万円くらいの支払いをするケースが増えてきています。

勿論、事業者が病院や介護事業者と連携しているため、医療・介護サービスの心配はありません。

但し、一時金は数十万円と安くなっているのですが、支払いできる方はいると思いますが、月々の支払いが30万円だと支払いが厳しいという方は多いと推察します。

そこで、受け取る年金額は、国民年金・厚生年金で違いはありますが、30万円との差額を補助する制度を、国・県・市で検討するべきだと考えます。

在宅医療・在宅介護サービスを推進するだけでは、世話をする家族の負担があまりに大きくなってしまふことを懸念します。

お知らせ

Twitter・Facebook 始めました。
斉藤誠で検索してください。
よろしくお願ひします。

無料法律相談どうぞ

下記の通り、ご案内しますので、
お気軽にご相談ください。

記

日時 2014年6月21日(土)
午後1時から4時まで

場所 堀江 はつ
千葉県議会議員事務所
西船2-27-23

窓口 さいとう 誠まで。

Tel 047-431-1717

尚、相談時間はお1人様30分とさ
せて頂きます。(予約制です)

なんでも労働相談

経済不況の最中、雇用契約の更新
がされなかったり、途中で雇用契約
解除がされるという相談が増えてい
ます。連合千葉総武地域協議会
では、給与・残業代不払い、休暇、労
働時間、解雇、退職金、労働災害、
労災・雇用保険などに関して、無料
労働相談を受けています。

お困りの方は、ご相談ください。

記

日時 6月20日(金)10時~16時
場所 船橋市勤労市民センター
連絡先 047-401-8126

活動日誌

- 5月 1日 農業委員と意見交換。
- 2日 市役所登庁。
農業委員と意見交換。
- 7日 交通不便地域に対する移動
円滑化について意見交換
北青会総会資料作成。
- 8日 前橋市視察。
美術館運営について調査。
- 10日 船橋市特別支援学校運動会
見学。北青会総会。
- 12日 待機児童対策・有料老人ホ
ームについて意見交換。
会派代表者会議傍聴。
船橋市国際交流協会総会。
- 13日 議会報告原稿作成。
- 14日 近隣小学校訪問。
地元に議会報告配布。
- 15日 地元に議会報告配布。
七宝焼き個展見学。
- 16日 自転車街宣活動。
- 17日 海神小・塚田小運動会見学。
- 18日 北青会バーベキュー大会
- 20~21日 一般質問原稿作成
- 22日 近隣中学校訪問
- 23日 千葉県弁護士会京葉支部
から請願書署名依頼受ける
- 24日 童謡文化を広める会総会
海神商店会総会に参加。
- 25日 ごみゼロ活動に参加。
- 26日 第2回定例会開会。
- 27~28日 議案等説明会。
- 29~30日 議案質疑原稿作成。

放課後ルーム・放課後子ども教室①

6月から西海神小・芝山東小・田喜野井・習志野台第一・大穴北小のモデル校5校で、放課後子ども教室がスタートします。

平成27年度には、市内の半数の小学校で、28年度には全小学校でスタートする予定です。

本年第1回定例会で、「放課後子ども教室は、放課後ルームとは別事業であり、地域の協力を得て、子どもの自主的活動の見守りをするのが主であり、全児童が対象で、子ども

放課後ルーム

対象 放課後家庭で子どもだけになってしまう小学生

目的 遊びと生活の場を用意して、子ども達の心身の発達を促していくこと

定員 ある

指導員 入所児童数によって加配

施設 専用施設

開設時間

平日 放課後から19時

学校休業日、土曜、夏休み等、大雪台風などで突然休校になる場合、学級閉鎖の場合

8時から19時

(日曜、祝日、年末年始は休み)

おやつ 支給ある

水分補給 支給ある

保護者負担 月1万円(おやつ代含)

のケアという観点とは違う」

と答弁がありました。

放課後子ども教室を推進することは賛成です。

しかし、放課後ルーム事業と分けて考えないと、現場で混乱が起こる可能性があることが懸念されます。

市担当部長からの答弁でもありませんように、別事業という観点で推進をしていただきたいと思います。

以下、放課後ルームと放課後子ども教室の比較です。

放課後子ども教室

対象 全小学生

目的 子ども達の活動拠点(居場所)を確保し、体験活動・地域との交流活動等を支援

定員 ない(全小学生が対象の為)

スタッフ コーディネーター1名

サブリーダー2名 計3名

施設 学校内施設(日替わり)

開設時間

平日 放課後から17時

学校休業日、夏休み等

9時から17時

(大雪、台風などで突然休校になる場合、学級閉鎖の場合、土・日曜・祝日・年末年始は休み)

おやつ 支給ない

水分補給 支給ない(自己責任)

保護者負担 年500円(保険料)

放課後ルーム・放課後子ども教室②

6月から西海神小・芝山東小・田喜野井・習志野台第一・大穴北小のモデル校5校で、放課後子ども教室がスタートします。

混乱することなく、順調にスタートすることを望むものであります。

放課後子ども教室は、地域の協力を得て、子ども達の活動拠点(居場所)を確保し、体験活動・地域との交流活動等を支援し、子どもの自主的活動の見守りをするのが主であり、子どものケアという観点とは違うというのが、特徴です。

様々な保護者の方からご意見を伺っていますが、放課後ルームに子どもを預けていない保護者の方からは、「夏休み等の長期の休みの際には、自宅にてゲームづけになるよりは、子ども教室に行って、様々な体験をさせるほうが健全で、登録を検討している」という声をいただいています。

一方、放課後ルームに子どもを預けている保護者の方からは、「特に夏休みには、ルームに行かない子どもたちと様々な体験を一緒にさせたいので、子ども教室の登録を考えてはいるが、しかし、放課後ルームの利用をやめて、子ども教室だけ登録することは考えていない。

低学年の間は、17時に自宅まで

一人で帰すことは、不審者の危険性を考えるとできない。

ルームの保護者負担が月1万円(おやつ代含)であるのに対して、子ども教室は年500円(保険料)で安く魅力はあるが、子どもの安全には代えることはできない。

値段の問題ではない。

少なくとも、低学年の間は、放課後ルームを利用する。

子ども教室は別に考える。」という声をいただきました。

以上のことから考えると、子ども教室は、学校の先生方に負担をかけないように細心の注意を払いながら、あくまでも、ルームとは別事業として推進していただきたいと思います。

また、放課後ルームについては、西海神ルームは、多目的室を2年限定で利用しているため、待機児童が発生していないが、第2ルーム増設計画予算が取り消された状態になっており、2年経過すれば、待機児童が発生するので、大至急、設計・建設予算を計上し、そして、その他の待機児童が発生しているルームについては、至急、ルーム増設に取り掛かっていただきたいと思います。

松戸市長には、保護者の不安を解消し、健全な放課後ルーム事業を推進していただきたいと要望します。

不登校児童への支援

4月23日、文教委員会が開催され、不登校児童生徒への支援について、教育委員会から説明を受けました。

不登校の相談については、教育相談全体の8割をしめており、不登校生徒の推移は、増減を繰り返していることがわかりました。

総合教育センターや青少年センターで相談受付をしています。

総合教育センター所管の適応指導教室「ひまわり」では、主に不登校児童の学校復帰支援を目的にしており、峰台小学校敷地内で集団適応をできるように、プログラムを組んでいます。

同じく総合教育センター所管の「ふれあい夢のふなっこ」では、主に引きこもり傾向のある児童を対象に、退職教員や学生ボランティアが家庭訪問等を実施しています。

青少年センターでは、家庭訪問や通所や学校の別室での面談等を通し、学校復帰を目指していますが、個々の児童の対応をしています。

ただ、不登校児童支援については、デリケートな対応をしなければならず、集団適応にせよ、個々の児童の対応にせよ、総合教育センターや青少年センターが相互に連携をして、対応をしているとのことでした。

アーツ前橋視察

5月8日、文教委員会で前橋市を視察してきましたが、テーマは、美術館の企画運営です。

船橋市には、椿貞雄画伯の絵画を清川医院の先生から寄付をいただいた経緯があり、美術館をつくる計画が以前からありました。

私も美術館設置を提案し続けてきましたが、昨年秋にオープンしたばかりの前橋市のアーツ前橋を見学し、館長と担当課の方から説明を受けました。

館長は、他にはない独自の美術館を目指すべきだと力強くおっしゃっていました。

天井は白を基調とした自然体な感じになっていました。

他の美術館同様に、年2回の大きな企画展や個展を開催していますが、独自の企画もしています。

市民参加型の芸術館と言ってもよく、中堅作家の展示に力を入れています。新人やベテラン作家の展示は一般的ですが、中堅に光が当たらないので、大事にしたいとのこと。

また、小学生などの子どもにワークショップを開催しています。

船橋市でも、ただ絵画を展示するのではなく、独自の企画力で大勢の市民に来ていただける工夫をする必要があると感じました。